評価の具体例

※ここに示した例は，啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて改変して使用してください。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 評価規準（B規準） | Bの状況に達していない場合の手立て例 |  | Aと見取る子どもの姿の具体例 |
| げんきに がっこうに  いけるかな | 【関心・意欲・態度】  一緒来る友達や出会う人々に元気に挨拶をしたり，安全に気をつけて学校まで来たりすることを楽しみにしている。（態度・行動・発言） | ・教科書の絵をクローズアップして場面を明確にし，教師と元気に挨拶する練習をして挨拶への関心を高める。  ・継続的に玄関で子どもを迎えて元気な挨拶を交わしたり，毎日の朝の会や帰りの会などで「今日は挨拶できたかな。」と声をかけたりする。 |  | ・「学校に行くのが楽しみだよ。明日からしっかり挨拶をして学校に行くよ。学校で早く友達をつくったり，勉強したりしたいな。」と，学校生活への具体的な楽しみを見出し，そのために家や登校時から努力しようとする姿勢を見せている。 |
| 【思考・表現】  登校途中で友達や地域の人々に元気に挨拶をしたり，交通ルールに気をつけて歩いたりしている。（行動・発言） | ・一緒に来る友達や出会う人のことを想起させる。  ・継続的に，朝の会や帰りの会で交通ルールについての話をしたり，守ってきた子の姿をほめたりする。 |  | ・「自分で起きて，家の人に言われなくても歯を磨いたよ。」「自分から大きな声で挨拶したよ。うれしかったよ。」と自分からすすんで行動していることを自覚し，またそれを喜びと感じながら実践している。 |
| 【気付き】  学校までの道のりには自分の学校生活が明るくなるように楽しみにしている人がたくさんいることに気付いている。（発表・行動） | ・教科書の絵を家から順番にたどり，その人が言っていることを想像させる。  ・１年を通して，学校や地域でふれあった方々の写真などを掲示していき，子どもたちがかかわる人々が増えていくことを実感させていく。 |  | ・「今日は○○さんと挨拶したよ。ぼくからおはようございますって言ったら喜んでくれたよ。」と，具体的な人の名前と話した内容を話すことができている。 |
| がっこうの いちにちは  どう なって いるかな | 【関心・意欲・態度】  学校生活に関心をもち，生活のリズムをつくろうとしている。（態度・行動・発言） | ・教科書の絵を見せて楽しいことがたくさんあることに気付かせる。  ・継続的に様子を見て，必要に応じて「次は何。」と尋ねてわかっていたときにほめるようにする。 |  | ・「次は△△だよ。○○さん，次は△△だよ。」と自分から意識的に次にやることを楽しそうに話したり，友達にも声をかけたりする姿勢を見せている。 |
| 【思考・表現】  幼稚園や保育所での生活との違いを自分の言葉で表現したり，実際に時間ごとのめあてに沿って行動したりしている。（行動・発言） | ・学校生活の順番を板書し，それぞれの場面を幼稚園や保育所のことと比べさせる。  ・学級に一日の生活の流れを掲示し，今どの場面であるのかをしばしば全員で確認するようにする。 |  | ・「わたしの保育所では先生に言われていろいろなことをしていたけれど，学校では自分から次のことがわかるから頑張るよ。」と，幼稚園や保育所と小学校との具体的な違いを成長観や自主性と絡めて表現することができている。 |
| 【気付き】  学校の生活時間が一定の間隔で区切られていることに気付いている。（行動・発言） | ・一日の生活の流れの図(教科書の絵や学級の掲示物)で一日に行うことを順番に確認していく。  ・「○○の活動はこれで終わりですよ。次は△△ですね。」と時々一緒に確認するようにする。 |  | ・「休み時間はみんなと遊んで仲よくなるよ。次の準備もするよ。」などと一つひとつの時間にやることだけでなく，その意味にも気付き，計画的に動くことでいろいろな活動がスムーズにいくことを感じている。 |
| あんぜんに きを つけて  かえれるかな | 【関心・意欲・態度】  学校から家までの道のりのなかにある危険をさがそうとしている。（態度・行動・発言） | ・教科書の絵を見せて，時には怖いことや危ないことがあることに気付かせる。  ・一年を通して，危ないことやその可能性があったときには話題にのせ，情報を共有させる。 |  | ・「教科書のここみたいに，わたしの家のそばにも工事中のところがあるよ。気を付けないとけがをしてしまうな。」と，教科書と対応させたり，実際の通学路を思い浮かべて，具体的な事例とその危険さを話すことができている。 |
| 【思考・表現】  学校から家までの道のりのなかにある危険に対してどうすればよいかを考え，適切な行動をしながら帰宅することができる。（行動・発言） | ・教科書の絵からピックアップして劇のようにして，実際にどうふるまえばよいのか考えさせる場を設定する。  ・一年を通して，危ないことやその可能性があったときには自分ならどうすればよいのかを考えさせる。 |  | ・「ぼくの家のそばにも川があるよ。もし雨が降ったら流されてしまうから近寄らないようにして帰るよ。」と，教科書と対応させたり，実際の通学路を思い浮かべて具体的な事例を挙げ，考えられる危険性と対処方法を話すことができている。 |
| 【気付き】  家までの道のりには危険がひそんでいること，適切に行動すれば安全に帰宅できることや，自分の安全を願う人がいることに気付いている。（行動・発言） | ・危険なことにあったらどうなるかを話し合う機会を設け，そうなったときの家族の気持ちを想像させる。  ・継続的に，子どもたちが安全に登下校できていることに対して教師自身がうれしく思っていることや保護者・地域の人が喜んでいることを伝えるようにする。 |  | ・「もしも交通事故にあってしまったら，自分も痛いし，お母さんや先生も悲しむ。絶対にルールを守って下校しよう。」と，危険な事象の結果を想像し，そのために行動するべきことを話すことができる。 |

評価の具体例

※ここに示した例は，啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて改変して使用してください。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 評価規準（B規準） | | Bの状況に達していない場合の手立て例 |  | Aと見取る子どもの姿の具体例 |
| なかよく あそべるかな | | 【関心・意欲・態度】  友達とかかわることに関心をもち，仲よく楽しくのびのびと遊んでいる。（態度・行動・発言） | ・友達の輪になかなか入っていけない子どものそばには教師がつき，にこにこと笑いかけながら一緒に遊ぶようにする。  ・長期的に気になる子どもを見取り，仲よく遊んでいる姿をとらえて笑いかけたり，「一緒に遊ぼうか」と手をとって友達の輪に教師と一緒に入るようにしたりする。 |  | ・「○○ちゃんも一緒に遊ぼう。」と自分が楽しむだけではなく，名前を呼んで声をかけたり，知らない子どもに対しては「名前を教えて。」と進んで友達になって遊んだりすることができている。 |
| 【思考・表現】  遊びのルールを守りながら，自分の名前を言ったり，体を動かしたりして遊ぶことができる。（行動・発言） | ・ルールを守らなかったり，何をしてよいのか戸惑っていたりする子どものそばに行き，一緒に遊びながらその様子を見せる。  ・継続的に休み時間の様子などを見て，ルールを守って楽しく遊んでいる姿をほめる。 |  | ・「○○さん，こういうときはちゃんと並ぶんだよ。先に並んでいた子が悲しくなるよ。みんなで楽しく遊ぼうよ。」と自分がルールにのっとって遊ぶだけではなく，きちんと遊べない友達に対して理由を教えながら優しく話しかけることができている。 |
| 【気付き】  友達を増やしたり，たくさんの友達と一緒にルールを守って遊んだりすると楽しくなることに気付いている。（行動・発言） | ・ルールを守らないことを指摘されて怒ったり，仲間に入れなくてすねたりしている子どものそばに行き，ルールを守ったり，自分から声をかけたりして遊んでいる子どもの姿を示しながら，先ずは教師と一緒に楽しく遊んでみるようにする。  ・継続的に休み時間の様子などを見て，楽しく遊ぶことができたときに「よかったね，うれしいね。」と話しかけるようにする。 |  | ・「今日わたしは△△をして遊びました。□□ということがあったけれど，自分から教えてあげたら○○くんもちゃんと一緒に遊ぶことができました。とても楽しかったです。」などと，困ったことや，より楽しく遊ぶための工夫などを意識して行い，その結果楽しくなったことを話すことができている。 |